

令和7年度第3回北海道旭川聾学校学校運営協議会 議事録

日時 令和8年(2026年)3月12日(木) 17時30分～18時30分
場所 北海道旭川聾学校 会議室
出席者 学校運営協議会委員
林綾香、大内祥一、瀧野雅一、澤恵子、中村博司、鳴海繭花、橋本由美、
門眞義弘
助言者
旭川医科大学病院 熊井琢美
運営
田中康崇、森山正大

1 開式の辞

2 学校長挨拶

3 説明・熟議

ア 令和7年度(2025年度)学校評価について(教頭) レジュメ及びスライドにより説明

質問・意見

○大内

学校の指導内容についての説明はよく理解できました。資料について行間、文字サイズが小さく読みづらく感じた。

今後の課題については工夫などして研究していただければと思う。

○瀧野

保護者評価の中の5～7の学習理解、学習評価のところについて評価が低いので改善を図るべきと思う。満点の評価項目もあるので、そこは継続してさらに伸ばしていければいいと思う。

●校長

保護者評価の中で様々な評価を受けていることが指摘されましたが、評価が出た時点で、どういう課題があるのか調査し教員、保護者に対し説明し、教員は授業改善に取り組んでいます。情報提供を受けたら来年度に向けてということではなく即対応していこうと考えています。

○瀧野

テストの点数が良くなかったからそう感じたということでしょうか。

●校長

例えば2番の学習指導にもコメントが寄せられましたが、これは授業を見て、こういう風に感じたということなので、教員は真摯に受け止め改善に向け努力しているところです。

○大内

評価項目31、地域の取組との連携、情報発信ですが評価は2～3点の評価が寄せられていますが、特に評価が良かった点について教えてください。

●教頭

この項目については寄宿舍についての評価になっており、寄宿舍生の保護者から回答されています。寄宿舍生は家庭から離れて生活しているため、生徒から帰省の際に話は聞いているが実際にはどうなのか疑問をもっている保護者も多い。そのような中でホームページで写真等を活用してお知らせしているところが高評価を受けているところと受け止めています。

最近個人情報取扱いが難しいため全てを公開するというのも難しくなっているので、その辺を理解の上、寄宿舍生の様子をご覧いただき、寄宿舍での生活が安心していただける環境を作っていきたいと思っています。

イ 令和8年度（2026年度）北海道旭川聾学校新年度方針について（校長）
レジュメ及びスライドにより説明

質問・意見

○大内

専門用語で理解が難しいところがありました。セルフアドボカシーについて、もう少し詳しく説明してほしい。

●校長

今、学校では、子どもたちが学校で勉強したあと社会に出て行ったときに、どのような力が求められているかを考えるようになりました。

障がいによって感じる困難さ、どのような手助けがあれば自分の力が発揮できるかということを相手に理解してもらい、合意形成することにより現状を変えていける力が必要になると思う。そういう力が備わっていれば将来的に聴覚障がいがあっても活躍ができる存在として光を放つことができると思う。これは中学部だけで取り組むことではなく、幼稚部から高等部まで段階的に社会に出るまでの間に身に付けてほしい力です。全国的に認知されてきている考え方なので推進していきたい。

本校は今年度、個別の教育支援計画という一人一人作る計画書があるが、見直しを図りました。これは本人及び保護者のもので、卒業時に持って行ってもらうものです。その中に合理的配慮という欄を作り、それを見れば自分にとって必要な合理的配慮は何かということが分かるように学校の教育課程にも組み入れて計画的に指導するというのを推進したいと考えています。

○大内

丁寧にご説明いただき、ありがとうございます。社会に出て行く前に幼稚部から高等部までリテラシーとして指導していく、または書く力、読む力、考える力、様々なリテラシーをきちんと生かした上で社会に参加できる力を身に付けることを指導していくということで、とてもいい言葉だと思います。目標をもつことで、ある意味自信をもってやっていけばいいと思います。内容については反対することはありません。とてもいい内容です。

●校長

手話だけではなく今はICTというものが力になってくれます。音声情報を文字にしてくれるとか、今は音声を手話に変換するという技術も研究されているので、そういう技術の使用方法を学んでいくのも大切だと思います。

○大内

私も生まれ変わって今の環境で勉強したいと思いました。学習面はまだまだで知識が必要な高齢なろう者がたくさんいます。その状況を見て今のような取組で指導する環境が整えばいいと思いました。

●教頭

最近AIが入ってきて学校でも使用できるものもあるが限定的なため、どういう風に活用していくかというのが非常に難しい状況です。私も子どもたちと一緒に学び直さなければならないと感じています。

○瀧野

地域交流の時の手話歌は有効だと感じています。手話を覚えることで、言葉が正しく伝えられていないかもしれないが、聴覚障がいへの理解が進んだと思える健聴者の方もいらっしゃいます。また、手話を1個1個覚えるのは難しいが、手話歌にすると結構覚えられたりするし、ろう者の方が健聴者に教えることもできるのでいいと思う。経営している保育園の中で手話歌を導入しているが保護者の方に喜ばれているので、手話歌は有効だと思います。

●校長

子どもたちは今、幼児教育の分野について、中学生の技術・家庭科の中でも幼児の発達を勉強する学習がある。本校の中学部の生徒は幼稚部もあるので、幼稚部に行っただけでかかわったりすることで学びを深めている。幼稚園とかかわることについては、天使保育園と交流保育を行っているが、もし交流として手話を教えてということであれば時間や距離、移動手段等で可能であれば中学生から教えてもらうのもいいと思う。中学部の学習の状況や教育課程もありますので実施可能かどうか相談が必要にはなりますが、前向きに考えたい内容です。

○瀧野

来てもいいですか。面白そうなので考慮します。

●教頭

北星中学校とも交流しているが、そこでも手話歌を行っています。非常に楽しそうにしており、子どもたちの自信にもつながるといような有効な取組だと思うので、あちこちに広められればと思います。

○瀧野

合理的配慮という言葉をよく聞くようになったが、実際どういうところが本当に困るのかということをお教えてもらう機会がない。かなり以前の話になるが、初めて避難訓練を行った際に、どこどこに逃げてくださいと指示したのですが、ろうの人が取り残されてしまったということに気が付いた。それ以降は、ろうの人にも声を掛けながらということにしていますが、実際のところでは困っている。学校では大丈夫と思うが学校以外のところにもそのようなこと等を情報発信し、合理的配慮としてどのようなことを配慮してもらおうと助かるのについて社会に知ってもらえたらいいと思う。

●教頭

先ほど、校長から話したセルフアドボカシーという力を身に付けるためには、自分に必要な合理的配慮を理解する必要があります。合理的配慮を受ける方が何を願っていたらいいか、自分からこんなことを手伝ってほしいという力が子どもたちにも必要になってきます。合理的配慮を受けられる時代になってきているが、なかなかこれを助けてくださいと言えないようなところがあるので、その辺を小さい頃から育てていくことが必要になっていると思います。

○瀧野

私も改めて勉強になっている。

社会には暖かい側面もあるし冷たい側面もあって、本社にバス通勤している知的障がいの方がいるので、何かあれば運転手さんに頼んで対応してもらったらいいというようにしている。通勤時間が中学生の通学時間と重なるので車内が混雑している場合があが、そのような時でも何かあると運転手の方へ行かなくてはと強引に行こうとする。それが周りの中学生にとっては「怖い」となり、その学校の教頭からその人をバスに乗せないでほしいと公共のバスにもかかわらず電話があった。その問題は解決したが難しいと感じた。

この事例は知的障がいの方のことでしたが、ろう者の中でもいろいろ誤解があつて、悪いと思ってやっているわけではなく、知らないことによって誤解が発生することもあると思うので、障がいのことが共有できると、もう少し心温かい世の中になるのかと思う。

年配の方と話をすると小さい頃、知的障がいの方でちょっと変わった行動する人がいると、「見るんじゃない。」と親から言われたということも聞くので、そういうことも良くないと思う。なので、知らないことで誤解がお互いに生じることもあると思うので、そういったことが共有できるといいのかと思う。知らないことの恐ろしさというものがあるので、お互いに情報発信していけるようになればいいと思う。

○鳴海

今回このグランドデザイン案を見させていただいて、育成を目指す資質能力のところ、先ほどセルフアドボカシーについて詳しく説明されたが、上に掲げる3点は密接にかかわっている気がしていて、自己理解力とコミュニケーション能力という部分がくっついてセルフアドボカシーが実現していくという気もするし、情報活用能力だとICTを使用してコミュニケーションが向上するようなどころもあるので、全体に関連したところでこのようなグランドデザインを出しているのだとよく分かりました。

○中村

学校の経営方針について具体的に分かりやすく説明いただいた。行事等で校長が意図している部分が先生方に具体的に伝わる状況が作れればいいと思う。

地域で何が貢献できるかということが町内会での課題になると思う。この地域にも聾学校の卒業生がいるので、卒業生やその保護者の力を活用できればいいと思うし町内会を代表してそれらの方が学校運営協議会委員になった方がよいのではと感じている。

○林

中学部に進学したこの1年間はこの学校に通わせてよかったと思えたし、恵まれた環境だったと思う。子どもから進んで「学校へ行きたい」「学校が楽しい。」ということばを聞くことができ、安心して通わせることができた。本人にとっても環境がいいのか一生懸命取り組んでいるので、提示された新年度方針のもと、2年生でも先生方と一緒に頑張ってもらいたいと思う。

ウ 令和7年度（2025年度）の教育活動について（校長）
レジュメ及びスライドにより説明

4 令和8年度（2026年度）北海道旭川聾学校新年度方針の承認
全会一致により承認

5 閉会